

●世界の主な地震

平成 22 年（2010 年）1 月に世界で発生したマグニチュード（M）6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布を図 1 に示す。また、その震源要素等を表 1 に示す。

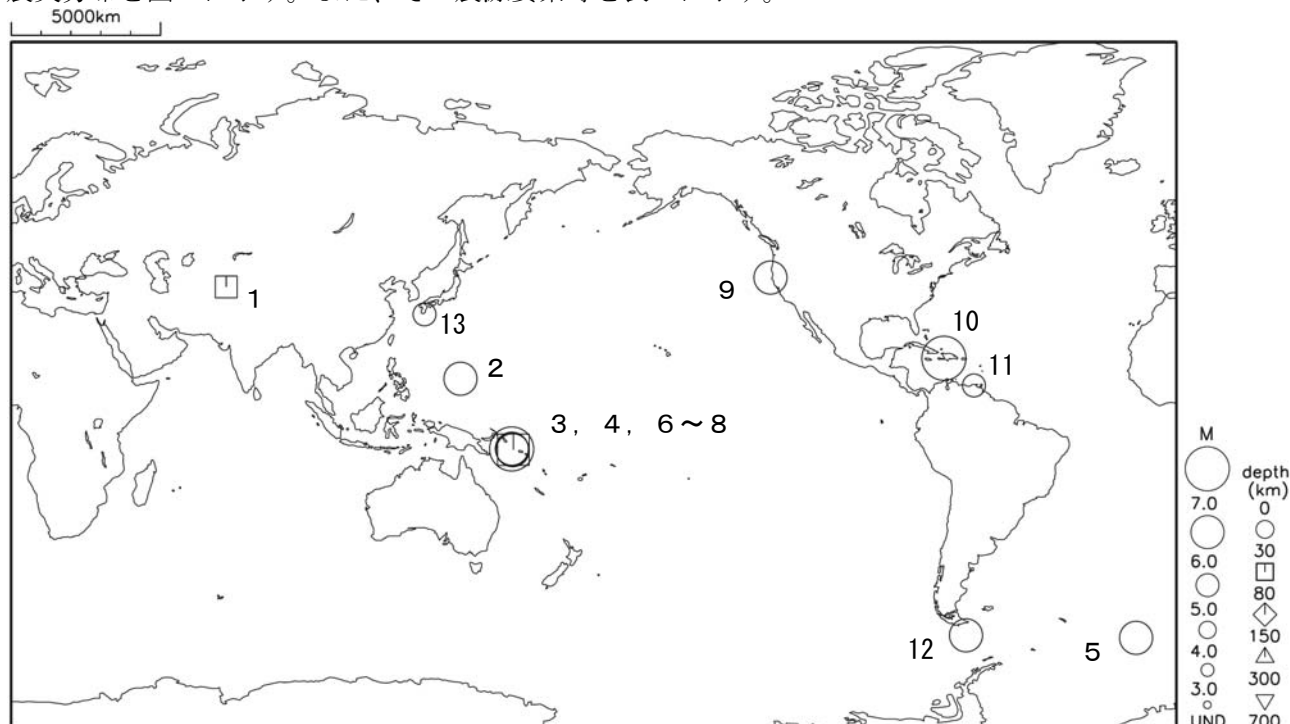


図 1 平成 22 年（2010 年）1 月に世界で発生した M6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布

* : 震源要素は米国地質調査所 (USGS) 発表の QUICK EPICENTER DETERMINATIONS (QED) による。ただし、日本付近で発生した地震の震源要素及びマグニチュードは気象庁による。

** : 数字は、表 1 の番号に対応する。

*** : マグニチュードは表 1 の mb (実体波マグニチュード)、Ms (表面波マグニチュード)、Mw (モーメントマグニチュード) のいずれか大きい値を用いて表示している。

表 1 平成 22 年（2010 年）1 月に世界で発生した M6.0 以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	地震発生時刻	緯度	経度	深さ (km)	mb	Ms	Mw	震央地名	備考 (被害状況など)	北西	印洋	遠地
1	01月02日11時15分	N38° 14.7'	E 71° 28.0'	47	5.4	5.1		アフガニスタン-タジキスタン国境	住家の倒壊98棟、住家被害約1,000棟等			
2	01月02日17時45分	N12° 25.4'	E141° 57.3'	2	5.7	5.9	6.1	マリアナ諸島南方				
3	01月04日06時48分	S 8° 44.5'	E157° 28.6'	26	6.0	6.4	6.6	ブーゲンビル-ソロモン諸島	住家被害数棟、ソロモン諸島で最大の高さ 2 cm の津波			
4	01月04日07時36分	S 8° 47.8'	E157° 20.9'	25	6.4	7.1	(7.0)	ブーゲンビル-ソロモン諸島	住家被害60棟以上、震央付近で津波遡上高 3 m	○		○
5	01月05日13時55分	S58° 10.3'	W 14° 41.7'	10	6.2	6.5	6.8	サウスサンドウィッチ諸島東方				
6	01月05日21時15分	S 9° 00.3'	E157° 34.9'	10	6.3	6.6	6.8	ブーゲンビル-ソロモン諸島	ソロモン諸島で最大の高さ 3 cm の津波			
7	01月05日22時11分	S 9° 03.0'	E157° 53.5'	35	5.6		6.0	ブーゲンビル-ソロモン諸島				
8	01月09日14時51分	S 9° 07.8'	E157° 37.5'	12	6.0	6.2	6.2	ブーゲンビル-ソロモン諸島				
9	01月10日09時27分	N40° 39.1'	W124° 41.5'	29	6.5	6.3	6.5	米国、カリフォルニア州北部沿岸	負傷者数十人、住家及び建物被害数十棟			
10	01月13日06時53分	N18° 26.9'	W 72° 32.6'	13			(7.1)	ハイチ	激甚な被害			○
11	01月16日03時00分	N10° 25.4'	W 63° 29.1'	5	5.3	5.2	5.5	ベネズエラ沿岸	負傷者11人、住家被害3棟			
12	01月17日21時00分	S57° 40.5'	W 65° 54.4'	5	6.1	6.0	6.3	ドレーク海峡				
13	01月25日16時15分	N30° 52.4'	E131° 09.0'	49		(5.4)		大隅半島東方沖	落石により国道269号が一部破損			

・ 震源要素、被害状況等は米国地質調査所 (USGS) 発表の QUICK EPICENTER DETERMINATIONS (QED) による (平成 22 年 2 月 2 日現在)。ただし、日本付近で発生した地震の震源要素及びマグニチュード (Ms の欄に括弧を付けて記載) は気象庁に、被害状況は総務省消防庁に、Mw の欄が括弧つきで記されている地震のモーメントマグニチュードは気象庁による。

・ 震源時は日本時間 [日本時間 = 協定世界時 + 9 時間] である。

・ 「北西」、「印洋」各欄の○印はそれぞれ、気象庁が北西太平洋域に提供している北西太平洋津波情報 (NWPTA)、及び、インド洋沿岸諸国に暫定提供しているインド洋津波監視情報 (TWI) (地震・火山月報 (防災編) 2005 年 5 月号参照) を発表したことを表す。

・ 「遠地」欄の○印は、気象庁が「遠地地震に関する情報」を発表したことを表す。

1月4日 ソロモン諸島の地震

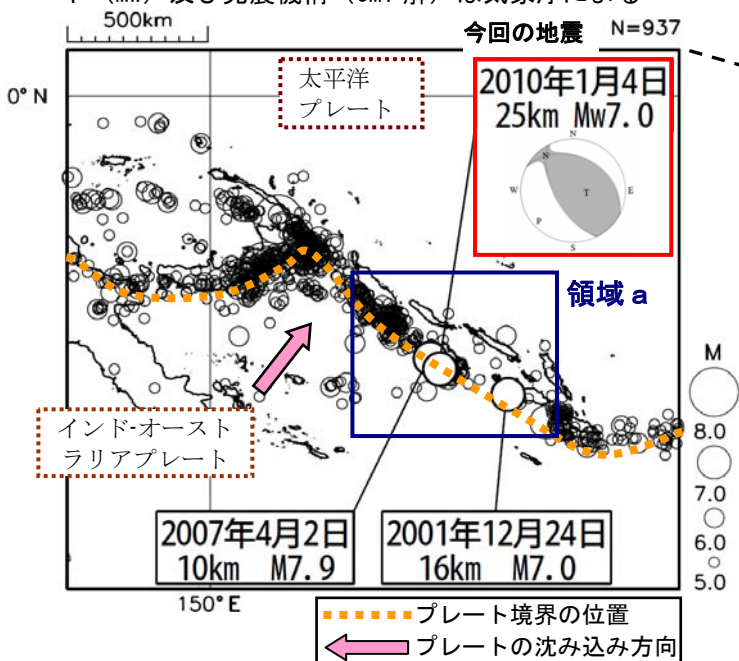
2010年1月4日07時36分(日本時間)にソロモン諸島でMw7.0(Mwは気象庁によるモーメントマグニチュード)の地震が発生した。この地震の発震機構(気象庁によるCMT解)は北東-南西方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。気象庁が東海地域に設置している体積歪計の記録から推定したモーメントマグニチュードは7.0~7.1であった(次頁参照)。

今回の地震の震源の約300km東方にあるホニアラでは、この地震による数cm程度の津波を観測した(太平洋津波警報センター[PTWC]による)。また、この地震に先立って、同日06時48分(日本時間)にM6.4地震が発生した。1月5日21時15分にもM6.6の地震(今回の地震の最大余震)が発生した(米国地質調査所[USGS]による)が、1月31日現在、余震活動は収まってきている。

今回の地震は、太平洋プレートとインド-オーストラリアプレートのプレート境界付近で発生した。今回の地震の震源周辺では、M7.0以上で津波を伴う地震が頻繁に発生している(宇津の「世界の被害地震の表」および西海岸/アラスカ津波警報センター[WC/ATWC]による)。

震央分布図(2000年1月1日~2010年1月31日、深さ0~100km、M≥5.0)

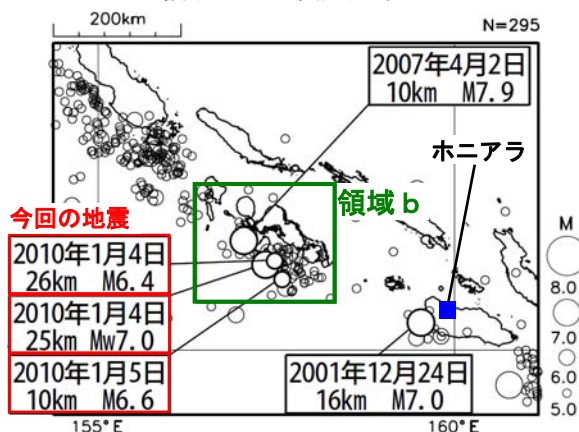
※震源要素は米国地質調査所による。今回の地震のモーメントマグニチュード(Mw)及び発震機構(CMT解)は気象庁による



今回の地震の震央位置

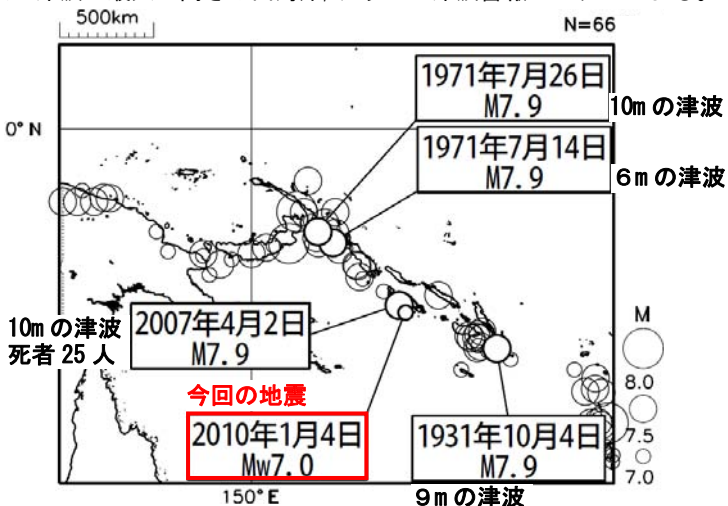


領域a内の震央分布図



震央分布図(1900年1月1日~2010年1月31日、深さ0~100km、M≥7.0)

※震源要素及び被害は、宇津の「世界の被害地震の表」による。今回の地震の震源は米国地質調査所による。今回の地震のモーメントマグニチュード(Mw)は気象庁による。
 ※津波の最大の高さは西海岸/アラスカ津波警報センターによる。



領域b内の地震活動経過図及び回数積算図(2010年1月1日~31日)

